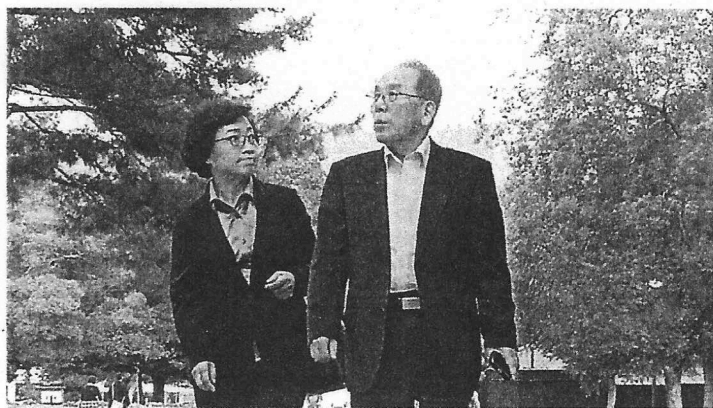


「日韓かけ橋に」映る遺志

新大久保駅韓国人死亡16年 映画公開

両親の留学生支援を記録



「日本と韓国のかげ橋になりたい」。16年前、そんな夢を抱いていた一人の韓国人留学生が日本で列車事故の犠牲になった。その遺志を継いだ両親らの活動を取り上げたドキュメンタリー映画が4日から、都内の映画館で公開される。制作者は「日韓をつなぐ本当のかげ橋は、地道で誠実な交流でこそ築かれると気づいてほしい」と願う。

映画のタイトルは「かけはし」。2001年1月26日、JR新大久保駅(東京都新宿区)で、ホームから落ちた男性を助けようと線路に下りた韓国人留学生李秀賢さん(当時26)が入ってきた電車にはねられ、亡くなった。映画は、李さんの遺志を継いで両親が続ける留学生支援や、若者の日韓交流の様子を記録している。

映画の一場面。日本を訪れた李さんの両親「ミユーズの里」かけし制作委員会」提供

正義感が強く、きちょうめんな性格だった李さんは、時間に遅れず、交通规则を守る日本人の律義さを好んでいたという。00年来日し、「将来は両国のかげ橋になりたい」と日本語学校で学んだ。

李さんの両親は「息子と同じように、母国と日本のかげ橋になりたいと願う若者を支援したい」と、全国から寄せられた弔慰金を海外から来日した留学生の奨学金にあてる活動に取り組んできた。この奨学金で学んだ留学生は18の国や地域の約790人にのぼる。

映画では、留学生が日本語を学ぶ風景や、日本に心を持ったきつかけなどが紹介される。また、韓国の若者が李さんゆかりの日本の地を訪れ、両国民の歴史認識の違いなどに戸惑いながらも、民間の草の根交流の大切さを体験する旅の様

子も記録している。

映画を作った中村里美さん(52)は、李さんの両親と長年交流してきた。「李さんが亡くなった後、日韓関係は良くなったり、悪化したりを繰り返してきたが、李さんの両親は一貫して訪日と留学生への支援を続けてきた。多くの人にその姿を見てもらい、政治とは別に一人ひとりができることを考えてほしい」と願う。

今年も命日に合わせて来日した李さんの父、李盛大さん(77)は「息子が生きていたら、今の両国関係を少しでも良くしよう」と様々なアイデアを実行していたはず。この映画が国民同士が素直に交流し合えるきっかけになれば」と語った。映画は大阪や島根、大分などでも公開される予定。詳しくはホームページ(<http://kakehashi-movie.ne.jp/>)で。(力丸祥子)